

## 事業計画書

1 事業名称	タマリバタケ
2 協働事業の内容及び実施方法	<p>(1)事業の目的</p> <p>都市部における「日常生活の一部としての農」をコンセプトに共同畑を運営。農という共同作業を通じて農の大切さを知り、地域の多様な住民が互いに知り合い、自然や土と触れ合うことで、コミュニティが育まれるようなきっかけづくりを行う。また、地域住民の誰もが参加でき、農を学びながら収穫を祝い、親交を深められる共同の畑や場とし、これらの活動を通じて、地域住民の生活の一部に「農」や「自然との接点」が入ることで、農の必要性（農地や農業）を学び共感することに繋がるよう、農を守るコミュニティづくりを目指す。</p> <p>(2)事業の内容</p> <p>*実施体制や実施手法を含めて記入すること。</p> <p>■実施体制 農と屋外スペースの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動法人 neomura を中心に関係機関との協働により、農を活用したコミュニティ形成に関心のある地域住民を募り運営体制を構築していく。</li> <li>・地域住民の参画誘導に関しては、neomura 理事だけでなくタマリバタケの中心的な運営メンバー20名ほどと協力して、年齢性別職業等、多様な方々に声をかける。また、農を学ぶにあたり、町会等を通じて農業経験者や農家を招くことを検討する。</li> <li>・当プロジェクトの進め方として、ワークショップをメインとしたプロジェクトにより進行する。「タマリバタケのコンセプトを理解した場の活用を一緒に考えませんか」という趣旨で地域住民や地域関係者に広く声をかけ、ワークショップなどの対話型の場づくりにより、想定している事業内容の中だけに限らず、地域にフィットする内容を参加者と一緒に考えていく。</li> <li>・そうした「協働型プロジェクト」として運営することで地域のキーパーソンを発掘し、進めながら改善や展開もできる体制を作る。また、地域住民でテーマごとのチームなどが立ち上がり、参加者が主体性を持って取り組める形とする。</li> <li>・事業実施については、事後的な結果によるプロジェクト評価だけでなく、プロセスに主体的に関与した住民をどれだけ生み出せるかが、当プロジェクトの重点になると考える。</li> </ul> <p>■実施手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信（SNS、HP作成、SNS以外） Facebook のような実名で、かつ既存の人間関係が反映されている SNS をメインに活用。Facebook ページ、グループなどの双方向なコミュニケーションツールを使って、ライフスタイルや職業・年齢など多様な方々が繋がれるような受け皿をつくる。</li> <li>・上野毛に住む区議会議員や町会長、影響力のある事業者など、既存の人脈を活かして、地域への紙媒体による通信等の発行・配布やロコミでの情報発信も積極的に行う。また、事業を分かりやすく表現したイラストや印刷物を製作し、情報発信する。</li> <li>・意識等醸成（イベント開催、周知パンフ等） 「まちに対する参画意識」を意図的に高めるために、全てのイベントは参画型でデザインする。DIY による土の耕作、種付けや日常的な水やりなど、地域住民が自ら行えるような体制を作っていく。また、参加者以外の理解度を向上していくため、月ごとにタマリバタケ日記等を発行していく。</li> <li>・調査の実施（ヒアリングやアンケート） 地域に向けた農とコミュニティに関するアンケートを実施する。参加のきっかけ、目的や参加後に得たものなど、できるだけ広く声を集める。定量的、定性的なアウトカムの評価を目指す。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動メニュー</li> <li>畑づくり (畑、プランター)</li> <li>農作物の共同耕作 (比較的育てやすい作物やハーブなどを想定)</li> <li>エントランスの構築</li> <li>共同コンポスト</li> <li>共同収穫、その場で簡易な調理</li> <li>収穫物やできた土の配布 (農の啓蒙活動、農を自宅に持ち込む)</li> <li>各種団体等との連携</li> <li>オンラインでのコミュニティ形成</li> <li>農×アート、農×文化など、生活の一部としての農の表現を試みる</li> </ul>	
	(3) 令和5年度 事業完了予定日	2024 年 2 月 29 日	
3 協働の 必要性 及び 役割 分担	(1) 区の担当課	都市整備政策部都市計画課	
	(2) 協働する意義・必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年目の実証実験に伴い、地域住民の日常生活に農の暮らしによる喜びなどを共感し、農の必要性や機能について理解を深めることを継続する必要がある、協働による人つながりと取組みを拡充させ、農の応援団を増やしていく。</li> <li>・地域住民との連携により、都市における QOL 向上としての農、そしてモデルケースとなる実績づくりとして、NPO の働きかけの効果と区側の新たな取組みへの一助になるようなきっかけとなる。</li> <li>・neomura では用賀駅周辺におけるお祭り開催や清掃活動を通じて、地域における多様な人間関係を育んできたほか、その知識や経験が活かしながら、当該事業の進行に多様な人材投入により、地域課題解決に向けたまちづくりの実現が可能となる。</li> <li>・neomura としても本事業による新たな取組みにチャレンジすることでノウハウが蓄積され、地域へ還元する協働団体へと更に飛躍されると考える。</li> </ul>	
	(3) 役割分担	提案団体	地域住民への告知・招集 (SNS・日記等の紙媒体による PR 活動)、地域住民との活躍の場を作り実働スタッフを募集、農園での耕作支援等 (管理含む)、企画運営 (関係機関及び他団体との連携調整、ワークショップ・イベント・アンケート実施、スタッフ会議、地域会議)
		区担当課	タマリバタケ運用支援、近隣住民及び町会との調整、広報協力、関係部署との協力要請及び連携体制の構築支援、PR 活動
	(4) 地域の団体との連携	共同イベントや企画の実施 社会福祉協議会、福祉団体、大学等との連携、町会や商店街、地元の飲食店との連携	
4 協働の 成果・ 効果	(1) 期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	<p>(団 体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップによる地域住民自らの検討により地域に根付いた運営</li> <li>・農のある生活による、農地保全の意識醸成</li> <li>・地域関係資本の創出 (地縁者、知人友人の数の増加、世代を超えた多様な人間関係)</li> </ul> <p>豊かな地域関係資本は、貨幣の介在しない経済圏の創出 (互助・共助経済) につながり、自然な助け合いや物々交換など、物質的にも精神的にも豊かな生活へとつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、生活の変化におけるヒアリングやアンケートの実施</li> </ul> <p>関係者や参加者だけでなく地域住民への定量的・定性的なアンケートを実施することで、上記の成果や方向性を可視化し、地域住人と協働したアクティビティのデザインができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の多様な住民やその家族、友人が互いに知り合うことによる会話が生まれ、新</li> </ul>	

[令和5年度提案型協働事業 様式]

		<p>たな世代間のつながりにより、コミュニティ形成が醸成されていくものとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その結果、将来的な地域のお祭りや地域活動や自治・政治などへの興味関心、引いては活動への参加率の向上を目指す。</li> </ul>
		<p>(区担当課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証実験として、区の課題や地域の課題において、「農」の理解を高めた活動により少しずつではあるが、その重要性等を認識しながら自主性のある取り組みができることを期待する。</li> <li>・SNS等を活用した情報発信により、幅広い年齢層を集めることができ、区だけでは得られない効果がある。</li> </ul>
	<p>(2)事業の成果の活用方法、将来の展開</p>	<p>(団 体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリングやアンケートで収集した地域住民の声を区と共有し、コミュニティ型農園としての形成に活かすものとする。</li> <li>・提案型協働事業によるコミュニティ型農園の実績を作り、本事業の趣旨に沿った地域まちづくりに向けた展開が他にも波及するように進めていく。</li> <li>・地域における農の重要性の認知拡大に向けて、このような場を①新設する、②公園など既存の公共地の一部を農活動へコンバートし、イギリスのトッドモーデンのようなエディブルシティ（食べられる街）として世田谷の個性と強みを活かした街づくりへと発展させたい。</li> </ul> <p>(区担当課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この実証実験による成果が得られることで、区内の農地や農業への理解者が増え、農に係わる人繋がりにより、農地保全の実現が可能となると考えている。このモデルケースを区内に発信し、区民だけでなく、区内事業者、教育関係、福祉関係に携わる人に農のある暮らしの良さを実感してもらいたいと考える。</li> <li>・また、みんなが農家の応援団になることで、地域にある農地等が利活用され、地域活性化につながっていくものとなる。</li> <li>・公共用地の有効活用においては、官民連携の取組みにより、行政コスト軽減の効果に繋がると見込まれることから、資産活用の最適化に向けた検討を進めたい。</li> </ul>
<p>5 その他</p>	<p>*提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p>	<p>我々neomuraは、用賀サマーフェスティバルという夏祭りを18年以上運営してきた実績があります。また近年は、チーム用賀というオンラインの地域コミュニティを組成し、その参加者は2000名を超えました。用賀BLUE HANDSという清掃プロジェクトを立ち上げ、用賀まちづくりセンターの支援のもと、毎月用賀近辺の清掃活動を行っております。我々の活動には、企業スポンサーも複数ついております。チーム用賀のネットワーク内には、不動産、都市開発、コミュニティデザイン、建築、農業、食、の専門家もおおり、当プロジェクトの実績もあり、継続を望む声を多く頂いております。</p>

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

	<p>(1) 昨年度の協働事業の効果・実績</p>	<p>&lt;令和4年度1年間のタマリバタケの運営実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間累計1000名を超える参加者</li> <li>・500名を超える「タマリバタケ」オンラインコミュニティ</li> <li>・母体となっているチーム用賀の2000名を超えるコミュニティメンバー</li> <li>・タマリバタケのHP作成、毎月の通信作成、SNS情報発信</li> <li>・毎月数回のワークショップ開催</li> <li>・農業の専門家との協力体制</li> <li>・地域住人からの認知理解と参画</li> <li>・町会長からの協力</li> <li>・ワークショップによるハタケ部分の耕作と収穫体験、及びタマリバ部分の造作</li> <li>・その他、前年度は狛江市の市議会議員や世田谷区の職員、さらには農林水産省の職員が視察</li> </ul>
<p>6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など</p>	<p>(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など</p>	<p>地域関係資本が広がりつつある中で、実施する内容や課題にも変化が生まれています。3年目となる本年は、タマリバタケが地域において更なるパブリックスペースとなるべく、公に開かれた場にしていきたい。</p> <p>なお、継続的な情報発信による地域住民への呼びかけ、前年度にできなかった関係機関との連携により、コンセプトに基づくワークショップやイベントの共同開催により意識醸成の拡大を図る。(町会、社会福祉協議会、福祉団体、大学、小学校等との連携) また、地域に向けた農とコミュニティに関するアンケートを実施する。</p> <p>インターネットを活用できない層に対しても発信を行い、地域関係資本の醸成を通じた福祉の充実を図っていく。</p> <p>本年度の具体的なアイデアは次のとおり検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な文化的イベントの実施</li> <li>・入り口の鍵の廃止 (別の形でのセキュリティ配慮の検討、隣接住民との調整)</li> <li>・地域における認知の拡大</li> <li>・実施地の拡大を踏まえた検討 (連携の強化)</li> </ul>
	<p>(3) 協働事業を継続する理由</p>	<p>昨年度は、世田谷区との協力体制により、タマリバタケのコンセプトを理解したたくさんの方々の地域の方々や農を求める方々からのご参画を頂くことができた。</p> <p>毎週、老若男女が30名近く集まるようなコミュニティスペースへと発展してきていると感じており、参加者からは継続を望む声を多く頂いている。また、まちづくりにおける農とコミュニティのあり方として、農地を守ることに繋がる可能性を感じている人が多く(私自身もその一人ですが)、ぜひとも本事業の継続により成果を出したいと思っている。</p> <p>特に地域課題解決に向けた取組みを重ね、地域住民自らタマリバタケの運営が行えるような体制を確立させる。</p> <p>世田谷区内でタマリバタケのような農を中心とした地域コミュニティを展開してゆき、食糧自給率の貢献、農地保全、地域のセーフティネットとなるような活動に繋げていきたいと考えている。</p>

### 事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
2023年5月	ハタケの作付け計画 タマリバタケ日記の継続的発行（毎月1回発行） エントランスづくりワークショップ
7月	タマリバのイベント企画（七夕等、夏の催し物と絡めた） 社会福祉協議会、福祉団体との連携開始 ワークショップ（何を実施するか、から地域住民や関係者で話し合う） 外観・装飾強化 野菜や花の育成を通じて農を学ぶ
8月	タマリバの強化（誰もが平日でもフラッと入れるように鍵の廃止を目指す） コンポストづくり 掲示板、参加者ボードの作成 夏の収穫祭
9月	収穫物をその場で調理する収穫ワークショップ
10月	農の意識醸成のためのイベント開催（リアル or オンラインは要検討） 秋の収穫祭
11月	苗、収穫物、土を近隣へ配布 収穫物の料理イベント（カレー等）
12月	近隣レストラン（楽ちん堂）等との連携
2024年1月	冬野菜の種植え、苗植え 参加者へのアンケートによる定量アウトカム評価レポート作成
2月	冬の収穫祭 餅つき  苗、収穫物、土を近隣へ配布 近隣レストランに持ち込み収穫祭  プロジェクト終了

## 事業収支予算書

## 【収入】

費目・内容	金額(円)	積算内訳
補助金	500,000円	
合計	500,000円	

## 【支出】

費目・内容	金額(円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	コミュニティ運営	100,000	100,000	コミュニティ運営に関わる活動費 ホームページ、ちらし等の作成費 2名×10万円
	クリエイティブ作成	100,000	100,000	
	[小計]	200,000	200,000	
報償費	謝礼金	40,000	40,000	農、工務等の活動に伴う専門家に対する謝礼
	[小計]	40,000	40,000	
消耗品・ 備品費	種・苗	20,000	20,000	テーブル・椅子・木材 レンガ数百個 外装資材、装飾品 農具
	備品・整備費	70,000	70,000	
	内装・外装	80,000	80,000	
	農具・工具	15,000	15,000	
	資材	10,000	10,000	
	[小計]	195,000	195,000	
複写・ 印刷費	ちらし印刷	60,000	60,000	ちらし印刷 @6000×10回(1000枚:6町会)
	[小計]	60,000	60,000	
郵送・ 広告・ 保険料				
	[小計]			
使用料・ 賃借料				
	[小計]			
交通費	旅費交通費	5,000	5,000	
	[小計]	5,000	5,000	
その他				
	[小計]			
合計	500,000	500,000		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費(団体等の日常運営の人件費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等)は対象外です。

## 団体の概要

団体名	特定非営利活動法人 neomura				
所在地	世田谷区瀬田 5-34-15-1005		電話番号		
			FAX		
代表者氏名	新井佑		役職	代表理事	
事業責任者 ※住所、電話番号・ FAX、Eメールは 公開しません。	氏名	武井浩三		役職	理事
	住所				
	電話番号				
	FAX				
	Eメール				
設立年月 (活動開始年月)	2005年4月 (特定非営利活動法人設立: 2016年6月)				
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	代表理事1名 理事4名 監事1名				
主な活動分野	お祭り等、地域イベントの企画・運営 地域清掃活動 地域コミュニティ育成活動 まちづくり活動				
主な活動実績	用賀サマーフェスティバル 2005年～ 用賀 秋の感謝祭 テイクアウト (オンライン) 2020年 用賀クリスマス・マーケット 2020年～  物産展「neoichi」運営 2017年～2018年 立飲みバル「neobar」運営 2018年～2019年  用賀ブルーハンズ 2019年～ チーム用賀 2019年～ 世田谷区との協働事業「タマリバタケ」2021年～ 用賀のデジタル地域通貨運営  大学等での講演会				
団体の ホームページ	<a href="https://neomura.or.jp">https://neomura.or.jp</a>				

## 選定委員からの意見

事業名：タマリバタケ

- 限られた空間の中で、趣向を凝らしたイベントを通じて、様々な年代の住民交流が生まれていることが評価できる。さらに、この交流が限定的な人ではなく、新たな人の取り込みとして広がるように期待する。
- 区担当課においては、行政提案である以上本来の提案目的に照らしその効果等について、正しく評価をされたい。目的と効果の関係性が不明確では、本事業のコンセプトの一つである“農”でなくても良いということになる。今後、未利用地の具体的活用事例としてしっかりとした検証と評価がなされることに期待する。
- 提案団体においては、事業の目的が、共同畑を運営し農の共同作業を通じて最終的にコミュニティづくりをめざすとなっているところ、農地はほんの一部で別の用途での利用に至っている印象が少なからずある。事業の目的をより鮮明にした事業展開に期待する。